

まちづくり感想

宇都宮大学国際学部行政学研究室

3年

氏家 祐太

今回のまちづくり提案は、前期の時点で「LRT がテーマ！」と決まっていたため、夏休みの間から活動を始められました。佐藤さん、佐々木さんにも現地で写真を撮影していただくことができ、非常に助かりました。後期開始からは、ジョイントと同時進行という形になってしまい、最後まで苦労しましたが、みんなで協力し合うことができ、良いものが出来上がったのではないかと思います。当日の発表も、パワポのアニメーションが表示されないなどのトラブルがありましたが、うまく対処することができてよかったです。結果は残念でしたが、みんなで一つのものをつくりあげる機会はありませんので、充実した活動を行えました。初めてインタビューを行いましたし、初めてパワポをつかってプレゼンをするなど、多くの貴重な初体験をすることができました。このような場を与えてくださり、インタビューに協力していただいた市役所の方々にはお礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。そして、たくさんご迷惑をかけてしまいましたが、佐藤さん、佐々木さん、そして包さん、お疲れ様でした！

佐々木 彩

9月24日にアメリカから帰国し、その2日後に同学年となる氏家君、佐藤さんと研究室で会いました。一度二人は街づくり提案、ジョイントのミーティングで会っていたようで、二人の話にまったくついていけませんでした。佐藤さんは一年ぶりに会うと留学を経験しさらにたくましくなったという印象で、また初対面の氏家君は一つ下ではあるものの、しっかり者と話しやすい社交的な方でした。そんな二人に対し帰国したばかりで浮かっていた私はその日になって初めておいていかれないようにしなければ、と危機感を感じました。

まちづくり提案はほぼ氏家くんに作ってもらうというかたちになってしまいました。もうすでに始めているのに途中から入ってこられてやりづらくないか、と心配していましたが、私たちにも意見を求めてくれ、海外の事例の部分でほんの少しでも貢献できてうれしかったです。

また、ポスターセッションづくりが予想以上に時間がかかりました。佐藤さんのセンスが活かされて手作り感あふれるポスターセッションになったと思います。氏家君がつくってくれた「若者×LRT×宇都宮」も目立っていてよかったです！私は海外事例をアルバ

ムのように紹介するものを作りましたが、なるべく飽きずに、イメージしやすいように心がけて作りました。

当日はパワーポイントのアニメーションが一部動かないというハプニングがありました。急いで直しましたが、操作をお願いしていた包さんには不安を与えてしまいました。しかし、先生に違和感がなかったと言っていただき安心しました。

他の参加団体はどれもすばらしく、宇都宮を愛する気持ちが伝わってきました。他県出身の私は知らなかったことが多く、新たな宇都宮の魅力を発見できたと思います。また、市民、市役所の方ともお話しすることができ、貴重な体験となりました。

佐藤 佳奈

今回のまちづくり提案は、LRT についてということで、後期開始前から氏家君に調査を進めてもらっていて、その後も論文作成や発表に向けて引っ張ってくれ、とても心強かったです。提案発表の直前には、ポスターセッションの準備や発表練習に加え、ジョイントの発表準備にも追い込まれていたため、とてもハードな日々でしたが、みんなで毎日1つ1つ課題をこなしていきました。当日、あれほど大勢の方々のまえで発表することや、市の職員の方や市民の方々とポスターセッションを通して直接お話しすることは、緊張はしましたが、とても貴重な経験となりました。発表を評価してくださった方や熱心に提案について聞いてきてくださった方が多くいて、素直に嬉しかったです。

LRT というタイムリーなテーマに取り組んだことで、賛否両論ある方々が聴講者になり不安な面もありましたが、発表の数日前の市長選や、たびたび行われている市内での世論調査などにもアンテナを張って、市の動向や現状課題などを学ぶことができ、市の行政について学ぶよい機会であったと思います。

今回は4年生や院生の方々が当日ポスターセッションについてくださり、私たちはほかの団体の発表を聴くことができました。提案が大学生特有のアイデアに溢れているものや、提案実行に向けて具体性のあるもの、地域力アップにつながるもの、などが高く評価されていたと思います。完成度が高く、感心するものも多く、また、それぞれが違った観点で宇都宮というまちの問題点を追及しまちづくり提案を行っていて、自分の住むまち宇都宮について深く考えることができました。

貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

4年

成澤 友里

3年生の皆さん、発表お疲れ様でした。今年の3年生は人数が少なく、さらに留学をし

ていた学生もいる中で非常に大変な思いをしたと思います。しかし、3年生は一致団結して私たちの期待以上のものを作り上げてくれました。

当日は少し緊張している様子も見受けられましたが、素晴らしい発表を見せてもらったと思っています。ポスターセッションでは、LRTという宇都宮市民にとっては非常にタイムリーな内容である分、賛否両論様々な考えを持つ方がいらっしゃいましたが、堂々と自分たちの発表について説明していて感心しました。

まちづくり提案と同時進行でジョイントの提案も作成しなければならないというのは辛かったと思いますが、この経験はこの後の就職活動や様々な場面で生きてくると思います。本当にお疲れ様でした。

板谷 洋介

3年生の皆さん、学生によるまちづくり提案とジョイントゼミ合宿、お疲れ様でした。一つの社会事象に注目し、それを掘り下げて考察することや、一つの目標に向かってチームで協力することの難しさと楽しさを感じられたことと思います。今回まちづくり提案のテーマで取り上げたLRTは、日本の交通インフラの未来を象徴するような大きなことだと思います。そうしたテーマに対して、臆せず、のびのびと、四苦八苦しながら取り組む皆の様子に、中村ゼミの伝統を感じました。特に、氏家君の文章力と発想の豊かさに、大いに刺激を受け、学ばせてもらいました。

ジョイント合宿の方は、お手伝いに行けなくて申し訳ありませんでした。他大学が大人数の中ではアウェイ感もあったでしょう。そんな中での発表や、他大学の発表の吟味や考察は大変だったかと思います。論文は具体的な数字を多く提示するとともに、実際に現地での見聞を織り交ぜた論考はジョイント合宿参加者全員に対して、多くのメッセージを送ることが出来たであろうと思います。遠く大洗まで出かけての取材の賜物でしょう。先輩として誇らしく思うと共に、負けてられないという思いとなり、励まされました。

本年度も開催日程が連続するスケジュールとなり、同時進行の中で大変だったと思います。しばし、心身をリフレッシュして、来年度の卒業論文で大いに活躍ください。

細川 いずみ

今回のまちづくり提案発表会では、各発表を見て、「これあったらいいなあ」「面白そうだなあ」と興味関心を抱いたものが、そのまま入賞していました。大学生だからこそ捉えられる時代に応じた「新たな需要」と既存資源の「新たな利用法」、この2つがポイントだったように感じます。宇都宮市がもっとこうあればいいのに、という純粋な学生の想いを、如何にして市民に共感してもらうか。この提案会は、そんな学生の考えを思い切りぶつけられる良い場だと思います。問題意識から発表まで、なかなか大変な作業ではあります

が、参加者が減っていることは少し残念です。

3年生のみなさん、おつかれさまでした。入賞こそ逃したものの、他グループの発表や市民の方々との意見交換を通し、学ぶものが多い一日だったと思います。また行政学ゼミにしては珍しく夏休みから着々と準備を進める姿勢は、見ていてとても良い刺激を受けました。この経験をひとつのステップとして、もう1年頑張ってください。

修士1年

包 金

私は留学生として研究室のことで2012年11月20日の宇都宮市大学生による第8回目の「町づくり提案」の発表会に参加した。「町づくり提案」の発表会は宇都宮市役所で開催して、今回の提案作成では「地域力UPで愉快度UP!」をテーマとして、宇都宮大学、宇都宮共和大学、作新学院大学、帝京大学の学生の皆様から10部提案書が出した。

今回の「町づくり提案」の発表会で自分が発表者グループのパソコン操作を担当した。研究室に入ってからこれは個人にとって初めて参加している活動のですごく緊張しながら一番大事なことになって何回練習した。でも、当日の発表現場に行くと緊張する気持ちを抑えられなくて、パソコン操作がちょっとめちゃくちゃになって失敗した。失敗少しでも気持ちが悪くなって、自分をとがめて、日本語を早めに上手になれるために頑張りたい気持ちが強かった。

修士2年

南 勇文

3年生の皆さん、お疲れ様でした。

自分のことばかりやってほぼアドバイスできなくてすみませんでした。LRTと自転車の可能について頑張りましたと思います。就活に多忙な日々を送っていますが、今後の卒論と就職面接にもこの経験を是非いかして下さい。3回目の参加となるが、たいへん勉強となりました。まちづくり提案を参加させて頂き、有り難うございました。

博士1年

陳 懐宇

まちづくり提案を終えた3年生のみなさん本当にお疲れ様でした。

中村ゼミのグループの発表は大変わかりやすく、まとまった内容にできているという感

想を持った。作ったポスターは非常に素晴らしいと思います。この経験を生かしてぜひ卒業論文と就職のほうも頑張ってください。

担当教員

中村祐司

若者の着眼点は消えない—うつのみや学生まちづくり提案に参加して—

宇都宮市がこの企画をスタートさせて以降、毎年欠かさずに参加してきたので、今回で8回目ぐらいだろうか。果たして継続の原動力は何なのだろうか。それはジョイントにもいえるだろうが、政策を取り巻く環境変容にあるように思われる。

仮に恒常的というか、毎年の課題環境が変わらなければ、いくらあっちの政策領域、こっちの政策領域と手を変え品を変えても、提案内容のマンネリ化は避けられないだろう。ところが実際は、今回地域国際研究会（＝行政学研究室）が取り上げたLRTにしても、市長選挙直後の時期であり、かつ市政をめぐる重要争点の一つであった。要するに揺れ動く政策領域なのである。この点にこそまちづくり提案の醍醐味がある。

だからこそ、若者（大学生）によるLRT利用とそれがもたらす波及力に注目した研究・発表が成り立ったのであろう。そして、これからも今回のLRTをめぐる着眼点は議論や実施のいろいろな場面で浮き上がってくるであろうし、決して消えることはない。

教員の毎年度の役割は、前期の段階で、ゼミ生が参加に踏み出す後押し役になることである。勇気をもって手を上げたゼミ生にもはや迷いはない。最初は孤独なチャレンジでも、援軍・助っ人は必ず現れる。少人数ならではの結束力というのか、追い込みのラスト2週間前ぐらいからは、まさにチームのような結束力を発揮した。

参加申請、市政研究センタースタッフによる助言訪問、論文提出、プレゼン準備、ポスター作成といった一連の多段階的な締切設定のプロセスにおいて、ゼミ生は知的なたくましさをどんどん身に付けていった。こうした成長ぶりを目の当たりにできるのも、教員が持てる一つの特権なのであろう。若者の成長と教員の喜びの機会を提供してくれたすべての関係者に感謝を申し上げたい。